

策として続けられています。日本では大部分が民間・市民団体によるものです。一部に公費補助の声もありますが、現状はどうでしょう。

六月の県民調査では小児甲状腺がんが百七十二人に上ったと言いますが、権威ある医師は事故との関係を認めません。逆に政府・電力業界は再稼働に躍起です。これでは保養キャンプへの援助等々は望めません。子どもたちの健康と心、そして権利を守る取り組みがまだ必要です。

編集委員 S

日本軍「慰安婦」メモリアル・デーを国

連記念日に！

「日韓合意は解決ではない。『解決』とは、被害当事者が受け入れられる解決策が示されたときに初めて、その第一歩を踏み出すことができる。変えるために、ともに行動しよう」「被害者が望む解決で重要な要素となる謝罪とはいかなるものか。誰がどのような加害行為を行ったのかを加害国が正しく認識し、その責任を認め、それを曖昧さのない明確な表現で国内的にも国際的にも表明し、その謝罪が真摯なも

のであると信じられる後続措置が伴って初めて、真の謝罪として被害者に受け入れられることができる」これは八月一四日の集会に出されたメモリアル・デー アピールの一部です。日本政府は十億円を出し、あとは韓国政府の責任で「平和の碑（日本大使館前に建てられた少女像の正式名称）」の撤去を迫っています。「慰安婦」問題をこの世から抹消したい安倍政権の思惑を現実のものにしてはならないと思います。

そして、沖縄から「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」共同代表・高里鈴代さんを迎えて「軍隊による性暴力の根絶にむけて」と題する講演がありました。

高里さんがこの日の集会のために持ってきてくれた冊子・『沖縄・米兵による女性への性犯罪』によると、米兵の性犯罪は一九四五年三月二六日沖縄戦で米軍がはじめて慶良間諸島に上陸したその直後より始まります。日米地位協定で守られて

いる米兵。捕まった犯人の処罰はほとんどの事件で不明とされています。

そして今年五月一九日、二十歳の女性が嘉手納基地勤務の元海兵隊員・軍属によって強姦、殺害され、遺体で見つかるという事件が起きました。七一年間ずっとどこかで戦争し続けているアメリカ人を殺し続けている米兵。基地がある限り被害者は無くならず、増え続けるのが沖縄の現実なのです。『童神（わらびがみ）』という歌があります。この世に生まれてきた我が子を深く慈しみ育てる美しくて優しい歌です。今、二十歳で殺された女性を

悼んで歌われています。涙、流れる。

一九九五年九月四日、米兵三人による少女暴行事件。沖縄全土に怒りと悲しみが広がり、十月に行われた県民総決起集会には八万を超える人々が結集し、政府に対し地位協定の見直しと基地縮小を迫りました。その民意に応えるかたちでSAC O（沖縄における施設及び区域に関する特別行動委員会）最終報告が翌年十二月にまとめられました。しかし、それはいらない基地、老朽化して使えない施設を整理縮小し、代わりに近代的な強固な軍事施設をあらたに作る

というものでした。すべて日本の税金を使っています。

戦後「銃剣とブルドーザー」で住民から奪い取った土地に作られ、「世界一危険な基地」と言われている普天間基地。代替施設など用意する必要などなく、即時無条件に撤去されるべきものです。その「移設」先が名護市辺野古・キャンプシュワブだと言っています。自然豊かな大浦湾を埋め立てて建設計画がすすめられている新たな基地は耐用年数2百年、オスプレイ百機、強襲揚陸艦が接岸できる目の前

に戦争が迫ってくる超巨大軍港を併せ持った基地です。

そして、国頭郡の国頭村と東村にまたがるアメリカ海兵隊の基地・北部訓練場の半分の返還には条件がつけられています。使わない土地を返す代わりにオスプレイ（SAC

道路を埋めつくす全国から高江に来た機動隊！



○合意にオスプレイ配備などなかった)のヘリパッドを六個つくれという。東村高江・ヤンバルの森が広がる。絶滅危惧種で国の特別展記念物のノグチゲラ、ヤンバルクイナの生息地であり、破壊してはならない豊かな自然の宝庫です。その森を大切に守り、寄り添い、生活しているおよそ一五〇人の集落を取り囲むようにオスプレイのヘリパッドの建設が強行されています。全国から集められた機動隊の数は一〇〇〇人。なんとしても工事を中断させようと、建設基地ゲート前に続く道路に座り込む人々を凶暴なむ

き出しの暴力で排除していく。民主主義のかけらもない。安倍政権の真の姿がここに表れています。「二〇年前にもっとキツチリと基地撤去を実現していればという思いで今、辺野古に立ち、高江に立っています」と言う高里さ

んの重い言葉。沖縄の怒り、悲しみ、願いを踏みにじり逆手にとって進められていく新たな基地強化。本土の、ヤマトンチューの「沖縄ならいいか」「沖縄なら仕方ない」といった根深い沖縄差別。そして、無関心が安倍の

戦争政策を支えています。沖縄を犠牲にして戦争へと突き進む社会が作られていく。この事実に関係な人はいないと思います。

編集委員 T